

研究機関名：東北大学

受付番号： 2016-1-162
研究課題名 日本における腎細胞癌の予後予測因子に対する研究
研究期間 西暦 2008年 1月（倫理委員会承認後）～ 2021年 6月
対象材料 ■病理材料（対象臓器名 腎腫瘍） □生検材料（対象臓器名） □血液材料 □遊離細胞 □その他（）
上記材料の採取期間 西暦 2008年 4月～2013年 6月
意義、目的 画像診断の進歩によりさらに早期限局腎癌が増えること、分子標的薬を中心とした新しい治療方法が出てきていることを考えると、現在の日本における予後予測因子はさらに変わっている可能性もある。現在欧米では、術前パラメータを用いたものでは Motzer らの予後予測スコアリングシステムが、また病理所見などの術後パラメータを用いたものとしては SSIGN スコアリングシステムが使用されている。予後予測スコアリングシステムを含め、どのシステムが最も予後を正確に予測できるかの検討を行い、今後の日本における腎細胞癌の治療適応に大きく関わる予後予測因子を明らかにするものである。
方法 新規に腎細胞癌の診断で腎摘出術を行う予定のもので、活動性の重複癌のない症例を対象とする。共同研究施設からは腫瘍部分の未染スライド3枚を、予後調査票と一緒にデータ管理者まで郵送してもらう。当院病理部にてスライドは検査され、病理の結果およびスライドは全てデータ管理者が保管する。転帰については一年毎に研究実施責任者もしくは分担者が診療録を調査し、予後因子を解析する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 川崎芳英 022-717-7278